

# 潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索 ▶  
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第308号  
平成21年6月

電話 052-671-4831  
ファックス 052-671-4856  
choonji@aichi.email.ne.jp

## 不<sup>ふ</sup>如<sup>に</sup>意<sup>よ</sup>

【語意】「意の如くならず」の意。  
思い通りにならないこと。また、そのさま。



撮影：超空正道

我が<sup>わが</sup>身体<sup>からだ</sup>  
己<sup>おのれ</sup>のものと  
思いしに

如何<sup>いかん</sup>せん  
病<sup>や</sup>みし体<sup>てい</sup>ひとつを  
自分で癒<sup>い</sup>やせない

我が<sup>わが</sup>精神<sup>こころ</sup>  
己<sup>おのれ</sup>のものと  
思いしに

如何<sup>いかん</sup>せん  
苦<sup>く</sup>しい思<sup>おも</sup>いひとつを  
自分で始<sup>はじ</sup>めできない

我が<sup>わが</sup>身体<sup>からだ</sup>  
我が<sup>わが</sup>精神<sup>こころ</sup>  
あるがまま  
あるがままを感謝<sup>かんしゃ</sup>し  
受け入れていこう

◎塔とう

今でこそ、幅や奥行きに比べて高さが著しく高いものは、すべて「塔」と呼ばれるが、この語はもともと梵語ぼんごのストウーパの音を写した「卒塔婆そとば」あるいは「塔婆とうば」が省略されたもの。中国語では塔のような建造物を「樓ろう」「觀かん」と呼んでいたが、やがて仏教が伝わると、このような建物は仏教関係だけのものになり、塔のことばが用いられるようになった。もちろんそれが日本に伝わったことはいうまでもない。

卒塔婆は、もちろん仏陀ぶつだの骨や髪を安置するために作られたもの。やがて聖地を標示するために作られた支提しだてい（梵語でチャイトヤ）と混同され、仏の教えを記念として建てられたものをすべて塔と呼ぶようになるのだが、最初は

土や石を椀型わんがたに盛ったもの、あるいは煉瓦れんがを積んだもので、塔というよりは墳ふんと呼んだほうがふさわしいものだった。やがて中国に伝わり、木塔が作られ、日本の「五重塔」「七重塔」などの多層塔へとなっていくのだが、これをまねたのが墓石。すなわち、我々庶民が建てる墓石は、もともとは仏陀の「仏舍利塔ぶつしゃりとう」に起源を求めるところができるということになる。

## 雑記



## ▼お詫び（その一）

今号は、まことに貧弱な寺報となつてしまいました。お詫び申し上げます。

といいますのも、当方、体調を崩してしまい、自由に時間を使うことができなくなつてしまいました

た。思い切つて、休刊してしまおうとも思いましたが、せっかくこれまで一度も休むことなく続けてきましたの、半ば意地で、発行させていただきました。体調が戻り次第、また、出来ればパワーアップして復帰したいと願っております。その節は、よろしくお願いいたします。

## ▼お詫び（その二）

住職がそんなことですので、法務は、しばらく、副住職が中心となつて執り行つていくことになりました。

不慣れなこともあり、ご無理な願いやら、ご迷惑を多々お掛けすることもあろうかと存じます。が、ご容赦のほど、かさねてよろしくお願い申し上げます。

## ◆さつそうと点滴歩行

板に付き 沐魚